



第84期報告書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

Anritsu
アンリツ株式会社



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。ここに第84期（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の事業の概況並びに決算の状況をご報告申し上げます。

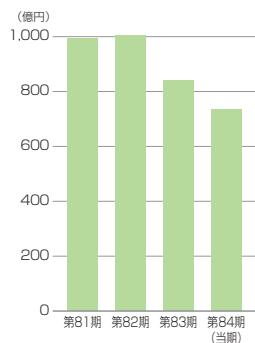
■ 全般的概況

当期における世界経済は、世界同時不況による景気後退局面にある中で、主要各国での金融・経済対策による政策効果もあり、金融市場では正常化に向けた動きが継続するとともに、景気は持ち直しつつあるものの依然として厳しい状況が続いています。

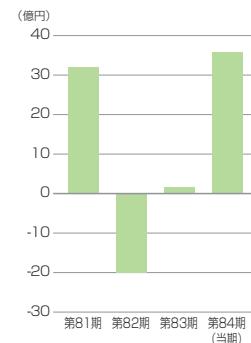
情報通信ネットワークの分野においては、固定通信、移动通信の両分野が一体となったネットワーク環境の構築とブロードバンド化の推進を背景として、それらを利用した多種多様なサービスが進展しています。新しい技術とサービスの進展による新規需要の変化の波は、既存事業者においては事業再編や合従連衡を促す一方で、スマートフォンやクラウドコンピューティングといった新しい市場が拡大するなど、市場を創出するとともに新規参入事業者を生み出しています。そのような動向を背景として移动通信の分野では、日米をはじめとする主要な通信事業者が次世代携帯電話の世界共通方式となるLTE（Long Term Evolution）の2010年以降の商用サービス開始を公表し、LTEへの開発投資が本格化しつつあります。また、世界最大の携帯電話加入者数を有する中国では、第3世代（3G）携帯電話サービスの普及拡大のためのインフラ整備が進められています。

このように新しいビジネスチャンスが拡大する状況にあって、当社グループは経営目標の達成に向け積極的に取組みを続けてまいりました。主力の計測器事業では、組織構造改革として生産体制の統合整備をさらに推し進めるとともに、国内営業体制の再編を実施し、収益性改善と競争力強化のための施策に取り組みました。また、

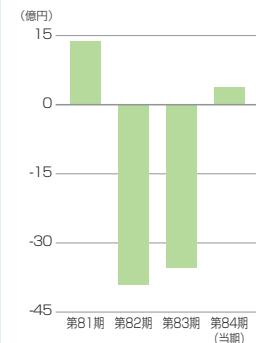
■ 売上高



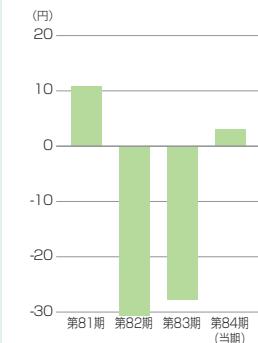
■ 経常利益



■ 当期純利益



■ 1株当たり当期純利益



LTE開発用計測器をはじめ、汎用計測器群の新製品を相次ぎ市場投入し、顧客需要の獲得に努めました。

当期は、総じて顧客の設備投資抑制の動きが継続する中、収益改善活動に取り組んだ結果、受注高は761億16百万円（前期比6.6%減）、売上高は735億48百万円（前期比12.4%減）と前期を下回りましたが、営業利益は緊急経営施策の実施による固定費削減をはじめとするグループを挙げた営業費用の削減効果もあって45億83百万円（前期比406.3%増）となり、経常利益は35億78百万円（前期は1億70百万円の利益）となりました。当期純利益は繰延税金資産の取崩しにより税金費用が増加したことから3億85百万円（前期は35億40百万円の損失）となりました。

なお、当期の期末配当金につきましては、厳しい経営環境に鑑みて、株主の皆様には誠に遺憾ながら見送らせていただきました。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

■ 今後の方針

今後の見通しにつきましては、新興国経済の拡大と先進国での景況感の改善などを背景に、世界経済は緩やかながら回復基調が続くものと思われれます。また、日本市場においても企業業績の改善から顧客の設備投資動向も上向くことが期待されます。一方で、市場構造の変化に伴う価格競争の激化や為替相場の動向などを注視していく必要があります。

当社グループはこのような市場環境を踏まえ、次の施策を展開してまいります。

計測器事業：需要が立ち上がりつつある第3.9世代（3.9G）

のLTE端末用計測器及び中長期的に成長が期待されるエレクトロニクス市場向けを中心に競争力のある製品のラインナップ拡充に注力するとともに、サービス・アシユアランスなどによる新興国市場での需要開拓に取り組めます。また、引き続き重要顧客との開発ロードマップの共有などにより顧客密着度を高め、商品企画力を高めることで、市場ニーズを捉えた新製品を市場投入するとともに、事業体制の整備を推し進めることで経営効率を高め、事業の拡大と収益力の向上に努めます。

情報通信事業：IPネットワークソリューションの競争力強化や、システムインテグレータとの協業を推進することで、事業の拡大に取り組めます。

産業機械事業：コスト削減への取組みを強化することで収益力の向上に努める一方、製品の高付加価値化、差別化戦略を進めるとともに、海外生産の本格化など海外市場への展開をさらに加速することで、事業の拡大を目指します。

当社は、「安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する企業」を目指し、事業の安定拡大及び財務体質の改善に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年6月

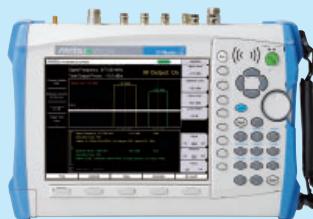
社長 橋本 裕一

区 分		第81期 平成18年度	第82期 平成19年度	第83期 平成20年度	第84期(当期) 平成21年度
売 上 高	(百万円)	99,445	100,485	83,940	73,548
営 業 利 益	(百万円)	6,358	5,356	905	4,583
経 常 利 益	(百万円)	3,193	△ 2,006	170	3,578
当 期 純 利 益	(百万円)	1,375	△ 3,900	△ 3,540	385
1株当たり当期純利益	(円)	10.79	△ 30.60	△ 27.78	3.02
総 資 産	(百万円)	140,395	124,917	100,983	101,188
純 資 産	(百万円)	61,619	52,845	37,524	37,674
1株当たり純資産額	(円)	483.25	414.16	294.29	295.49
研 究 開 発 費	(百万円)	14,072	14,679	11,704	9,387
設 備 投 資 額	(百万円)	2,319	2,790	2,236	1,134
減 価 償 却 費	(百万円)	3,599	3,373	3,099	2,979

計測器事業



デジタル無線機器用計測器



LTE用ハンドヘルド計測器



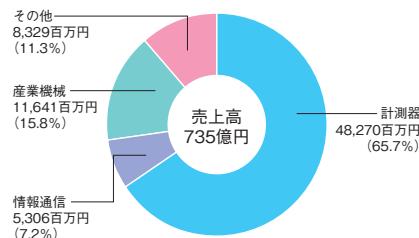
光デバイス用計測器

この事業は、通信事業者、関連機器メーカー、保守工事業者へ納入するIPネットワーク通信用、移動通信用、RF・マイクロ波・ミリ波帯用など、多機種にわたる通信用及び汎用計測器、測定システム、サービス・アシュアランスの開発、製造、販売を行っています。

当期は、次世代携帯電話の世界共通方式となるLTEの基地局や携帯端末の開発需要が立ち上がるとともに、北米市場では需要底入れの兆しが見られます。しかしながら、日本を中心に顧客の設備投資抑制や投資先送りが継続しました。この結果、売上高は482億70百万円（前期比16.0%減）となりましたが、営業利益は22億51百万円（前期は7億91百万円の損失）と営業黒字に転換しました。

事業部門別売上高（連結）

区 分	第83期（前期）		第84期（当期）		前期比 増減率
	金額 百万円	構成比 %	金額 百万円	構成比 %	
売上高	83,940	100.0	73,548	100.0	△ 12.4
計測器	57,449	68.4	48,270	65.7	△ 16.0
情報通信	5,200	6.2	5,306	7.2	2.0
産業機械	12,980	15.5	11,641	15.8	△ 10.3
その他	8,309	9.9	8,329	11.3	0.2



■情報通信事業



帯域制御装置

この事業は、官公庁や地方自治体へ納入する公共情報システム、通信オペレーターやインターネットサービスプロバイダー等向けの映像配信ソリューションや帯域制御装置などの開発、製造、販売を行っています。

当期は、官公庁向けプロジェクトで進捗に遅れが生じたものの、帯域制御装置が金融機関のネットワーク向けを中心に堅調に推移しました。この結果、売上高は53億6百万円（前期比2.0%増）、営業利益は1億43百万円（前期比101.8%増）となりました。

■産業機械事業

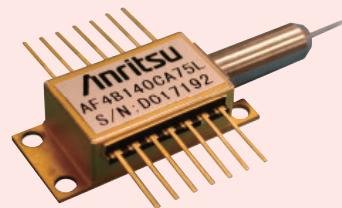


X線異物検出機

この事業は、食品・薬品・化粧品産業向けに高精度かつ高速の各種自動重量選別機、自動電子計量機、異物検出機などの産業機器の開発、製造、販売を行っています。

当期は、主力の日本市場では食品メーカーの検査設備への投資が低調に推移しました。一方、海外市場ではアジアで需要回復の兆しが見られました。この結果、売上高は116億41百万円（前期比10.3%減）となりましたが、営業利益は6億10百万円（前期比2.3%増）となりました。

■その他の事業



光通信用レーザーダイオード

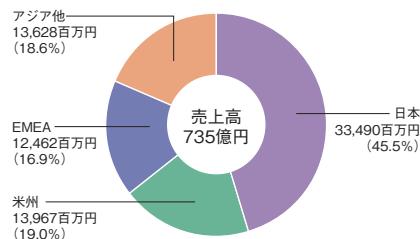
この事業は、デバイス事業、精密計測事業、環境関連事業及び物流、厚生サービス、不動産賃貸及びその他の事業からなっております。

当期は、精密計測事業では需要が落ち込み不振でした。デバイス事業は国内外の光通信市場で需要が堅調でした。この結果、売上高は83億29百万円（前期比0.2%増）、営業利益は22億48百万円（前期比12.7%増）となりました。

■地域別売上高（連結）

区 分	第83期（前期）		第84期（当期）		前期比 増減率
	金 額 百万円	構成比 %	金 額 百万円	構成比 %	
売 上 高	83,940	100.0	73,548	100.0	△ 12.4
日 本	37,459	44.6	33,490	45.5	△ 10.6
海 外	46,480	55.4	40,058	54.5	△ 13.8
米 州	16,365	19.5	13,967	19.0	△ 14.7
E M E A	14,870	17.7	12,462	16.9	△ 16.2
アジア他	15,244	18.2	13,628	18.6	△ 10.6

EMEA：欧州、中近東、アフリカ地域



連結貸借対照表 (第83期：平成21年3月31日現在)

(第84期：平成22年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	第83期 (前期)	第84期 (当期)	科目	第83期 (前期)	第84期 (当期)
資産の部	100,983	101,188	負債の部	63,458	63,514
流動資産	62,286	67,749	流動負債	28,062	27,813
現金及び預金	18,538	26,269	支払手形及び買掛金	5,020	5,296
受取手形及び売掛金	20,428	21,012	① 短期借入金	11,601	4,150
たな卸資産	14,729	13,471	③ 1年内償還予定の新株予約権付社債	-	7,024
繰延税金資産	7,542	6,288	未払法人税等	889	1,058
その他	1,392	960	役員賞与引当金	7	15
貸倒引当金	△ 344	△ 253	その他	10,542	10,267
固定資産	38,697	33,439	固定負債	35,395	35,700
有形固定資産	20,986	19,117	② 社債	10,000	10,000
建物及び構築物	12,693	11,669	③ 新株予約権付社債	15,000	-
機械装置及び運搬具	2,105	1,642	① 長期借入金	7,003	21,100
工具、器具及び備品	1,806	1,470	リース債務	395	1,659
土地	4,380	4,333	繰延税金負債	659	598
建設仮勘定	0	0	退職給付引当金	1,630	1,686
無形固定資産	4,380	3,509	役員退職慰労引当金	20	15
のれん	3,523	2,882	その他	685	639
その他	856	626	純資産の部	37,524	37,674
投資その他の資産	13,330	10,812	株主資本	43,810	44,191
投資有価証券	1,448	906	資本金	14,049	14,049
繰延税金資産	2,985	1,312	資本剰余金	22,999	22,999
長期前払費用	8,318	8,064	利益剰余金	7,593	7,978
その他	613	530	自己株式	△ 832	△ 836
貸倒引当金	△ 35	△ 1	評価・換算差額等	△ 6,305	△ 6,537
			その他有価証券評価差額金	258	138
			繰延ヘッジ損益	△ 21	△ 28
			為替換算調整勘定	△ 6,542	△ 6,647
			新株予約権	19	19
合 計	100,983	101,188	合 計	100,983	101,188

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表のポイント

■ 資産

流動資産は、現金及び預金の増加により、前期末に比べ54億63百万円増加しました。固定資産は、投資抑制などにより、前期末に比べ52億58百万円減少しました。

■ 有利子負債

有利子負債は、前期末から13億30百万円減少し、422億74百万円になりました。

- ① 短期借入金・長期借入金
短期借入金が返済により減少する一方、長期借入金が増加しました。
- ② 第4回無担保社債
満期 平成24年9月26日
利率 年1.87%

- ③ 2010年満期円貨建転換社債型新株予約権付社債
1年内に償還を迎えることから、固定負債から流動負債へ科目変更しました。
なお、買入売却により79億76百万円減少しました。

満期 平成22年9月21日
利率 なし
転換価額 1,070円

連結損益計算書 (第83期：平成20年4月1日から平成21年3月31日まで) (第84期：平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	第83期 (前期)	第84期 (当期)
売上高	83,940	73,548
売上原価	52,005	42,707
売上総利益	31,934	30,840
販売費及び一般管理費	31,029	26,257
営業利益	905	4,583
受取利息	176	73
受取配当金	34	24
その他の営業外収益	311	216
営業外収益	522	314
支払利息	706	630
為替差損	265	320
その他の営業外費用	284	367
営業外費用	1,257	1,319
経常利益	170	3,578
固定資産売却益	—	148
投資有価証券売却益	—	140
社債買入消却益	—	62
退職給付制度改定益	1,201	—
取用補償金	98	—
新株予約権戻入益	34	—
特別利益	1,334	351
投資有価証券評価損	169	16
事業構造改善費用	2,213	—
たな卸資産評価損	1,357	—
特別損失	3,741	16
税金等調整前当期純利益	△ 2,236	3,912
法人税、住民税及び事業税	1,175	727
法人税等調整額	129	2,800
当期純利益	△ 3,540	385

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書のポイント

■ 売上高

総じて顧客の設備投資抑制の動きが続
き、前期を下回りました。

■ 営業利益

緊急経営施策の実施による固定費削減を
はじめとするグループを挙げた営業費用の
削減効果もあって、大幅に増加しました。

■ 当期純利益

繰延税金資産の取崩しにより税金費用が
増加したことから、3億85百万円の利益
となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(第83期：平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)
(第84期：平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	第83期 (前期)	第84期 (当期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,916	7,970
税金等調整前当期純利益	△ 2,236	3,912
減価償却費	3,181	2,972
のれん償却額	640	640
受取利息及び受取配当金	△ 210	△ 97
支払利息	706	630
その他の営業外損益・特別損益	192	△ 374
売上債権の増減額	5,811	△ 928
たな卸資産の減少額	5,635	1,000
仕入債務の増減額	△ 1,225	470
その他	△ 4,043	318
小計	8,452	8,546
利息及び配当金の受取額	210	95
利息の支払額	△ 707	△ 627
法人税等の支払額	△ 1,136	△ 424
法人税等の還付額	96	379
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,326	△ 498
定期預金の払出による収入	700	—
有形固定資産の取得による支出	△ 1,912	△ 1,160
有形固定資産の売却による収入	34	206
投資有価証券の取得による支出	△ 3	△ 4
投資有価証券の売却による収入	5	500
その他	△ 150	△ 40
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,847	386
短期借入金純増減額	△ 1,790	25
長期借入れによる収入	—	21,735
長期借入金の返済による支出	△ 975	△ 15,035
社債の買入消却による支出	—	△ 7,913
セール・アンド・リースバックによる収入	—	1,984
提出会社による配当金の支払額	△ 892	—
その他	△ 189	△ 409
現金及び現金同等物に係る換算差額	111	△ 126
現金及び現金同等物の増減額	1,853	7,731
現金及び現金同等物の期首残高	16,684	18,538
現金及び現金同等物の期末残高	18,538	26,269

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益の計上をはじめ、たな卸資産の圧縮など運転資本の効率化に努めたことにより、営業活動の結果得られた資金は前期から増加しました。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出のほか、投資有価証券の売却による収入がありました。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金70億円を返済する一方、シンジケートローンによる120億円の長期借入等を行いました。また、平成22年9月償還予定の新株予約権付社債150億円のうち、79億76百万円の買入消却を行いました。

貸借対照表

(第83期：平成21年3月31日現在)
(第84期：平成22年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	第83期 (前期)	第84期 (当期)
資産の部		
流動資産	44,262	46,590
固定資産	79,520	76,659
有形固定資産	8,347	9,478
無形固定資産	434	343
投資その他の資産	70,738	66,838
資産合計	123,782	123,250
負債の部		
流動負債	27,231	29,049
固定負債	32,299	32,353
負債合計	59,530	61,403
純資産の部		
株主資本	63,996	61,722
資本金	14,049	14,049
資本剰余金	22,999	22,999
利益剰余金	27,779	25,509
自己株式	△ 832	△ 836
評価・換算差額等	235	105
新株予約権	19	19
純資産合計	64,251	61,847
負債・純資産合計	123,782	123,250

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(第83期：平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)
(第84期：平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	第83期 (前期)	第84期 (当期)
売上高	41,229	36,753
売上原価	32,381	27,705
売上総利益	8,847	9,048
販売費及び一般管理費	10,089	7,283
営業利益	△ 1,241	1,764
受取利息	263	307
受取配当金	7,001	344
為替差益	-	11
ブランド管理料	127	113
その他営業外収益	100	150
営業外収益	7,493	927
支払利息	265	371
社債利息	187	187
為替差損	79	-
その他営業外費用	214	261
営業外費用	747	820
経常利益	5,503	1,872
固定資産売却益	501	148
投資有価証券売却益	-	140
社債買入消却益	-	62
抱合せ株式消滅差益	-	46
退職給付制度改定益	785	-
収用補償金	98	-
新株予約権戻入益	34	-
特別利益	1,420	397
関係会社株式評価損	4,985	2,014
投資有価証券評価損	52	16
たな卸資産評価損	1,289	-
事業構造改善費用	591	-
特別損失	6,919	2,031
税引前当期純利益	5	238
法人税、住民税及び事業税	50	△ 409
法人税等調整額	△ 408	2,918
当期純利益	363	△ 2,270

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

イノベーションで利益ある持続的成長に邁進



社長 橋本裕一

プロフィール

昭和24年10月20日生

昭和48年当社入社

計測器の生産管理業務、情報システムの開発業務、経営戦略・経営企画業務に携わる。

平成10年 経理部長

平成14年 取締役・執行役員

平成18年 専務執行役員

平成19年 代表取締役

平成22年4月より代表取締役社長

このたび、アンリツ株式会社の社長、並びにアンリツグループCEOに就任しました。グループ経営のさらなる強化に注力し、株主の皆様のご期待に応えてまいります。

私は、社長就任にあたり、中期経営計画（2012年度連結売上高900億円、連結営業利益率10%）を策定しました。アンリツは2015年に創業120周年を迎えます。今回の中期経営計画は、節目の年に向けた一里塚として位置付けており、グループ一丸となって取り組んでまいります。

この利益ある持続的成長の推進力となるものが「イノベーション」です。イノベーションは技術革新と訳されていますが、本来の意味は創造的破壊です。旧来の考え方やビジネス手法を踏襲しては進歩しません。衆知を結集したイノベーション活動に取り組み、新たな価値、ビジネスモデルを生み出してまいります。

アンリツグループは着実に利益体質に転換しており、自信をもって新たな一歩を踏み出しました。皆様の絶大なるご支援をお願い申し上げます。

業界初！

コンフォーマンステストシステムがLTE端末のGCF認証を取得

アンリツのLTEコンフォーマンステストシステムME7873L/ME7832Lが、業界で初めてLTE端末のRF試験とプロトコル試験のGCF認証を取得しました。LTE (Long Term Evolution) は、次世代高速移動無線通信サービスであり、日本や欧米の先進的な事業者では、2010年後半からサービス開始を予定しています。LTE端末の商用化に向けた動きが活発化している中、ME7873L/ME7832Lを用いることにより規格適合試験が行え、携帯端末がLTE規格に合致しているかどうか確認できます。

*GCF：Global Certification Forum

携帯端末のグローバルな相互接続を保証するための団体。携帯端末のネットワークでの運用基準や規格適合試験基準を定めている。GCFにより承認されたテストシステムで試験され合格した携帯端末は、3GPP規格に合致していると保証される。



GCF認証を取得したコンフォーマンステストシステム

汎用計測ラインナップ拡充！

無線通信・有線通信双方で新モデルを投入

デジタル無線技術は警察、タクシーといった公共・業務用無線、カーエレクトロニクス、家電などさまざまな場面で活用されています。これら裾野の広い市場で世界の競合との熾烈な競争を勝ち抜くべく、新たに開発したのが、シグナルアナライザMS2830Aです。MS2830Aは、各種デジタル無線機器、電子部品の製造ラインをターゲットにしており、この分野で使用される計測器では業界最速の測定速度と最高水準の測定性能を有しています。

また、有線通信分野の新製品は光スペクトラムアナライザMS9740Aです。MS9740Aは、高速・大容量通信ネットワークの心臓部とも言える光デバイスの品質評価用計測器です。従来機種約1/5という高速測定を低価格で実現していることから、光デバイスの製造市場で高く評価されています。



MS2830Aのグローバルビジネス拡大に向け製品説明会を開催



FOE展で高い関心を寄せられたMS9740A

各種展示会に出展 MWC展&JAPAN PACK

アンリツグループは、国内外でさまざまな展示会に参加し、セールスプロモーションを行っています。

計測器事業では、移动通信業界最大のグローバル展示会であるMobile World Congress展（スペイン・バルセロナ）で、LTEにフォーカスした各種ソリューションを紹介しました。お客様との商談件数が昨年の50%増となるなど、今後のビジネス拡大に向け、手応えのある展示会となりました。

産業機械事業では、子会社アンリツ産機システム(株)が、アジア最大級の包装機械展であるJAPAN PACKに参加しました。食品業界の課題となっている包装不良検査のデモンストレーションを実施するなど、ニーズを踏まえた展示を行ったことから、前年を上回る来場者があり、「安全・安心のアンリツ」をPRする機会となりました。



LTEのアンリツをPRしたMobile World Congress展



盛況だったJAPAN PACK展

人間電池でオルゴール おもしろ理科実験教室開催

厚木市飯山小学校で、前年度に続き「おもしろ理科実験教室」を開催しました。この取組みは、厚木市の青少年教育の一環であり、アンリツは2007年から協力しています。2009年からは、電池をテーマにした授業で子どもたちに理科のおもしろさを伝えています。実験では、金属と電解液（電気を通す液体）があれば電池がつくれるという特性に着目。塩水、スプーン、アルミホイルを利用して児童自らが電池になり、電子オルゴールを鳴らしています。開催後には、毎回子どもたちから作文集が届きます。感謝の言葉に加え、質問も寄せられており、理科実験を通して新たな疑問や興味がわいているようです。

アンリツは、これからも地域に根ざした社会貢献活動に取り組んでまいります。



「人間電池」の実験



授業の様子



●当社Webサイトのリニューアル

平成22年1月に、当社Webサイトをリニューアルいたしました。グローバルに統一し、より使いやすいWebサイトを目指し、製品紹介、決算情報などをご案内しております。また、株主・投資家及び当社Webサイトに掲載される投資家情報に関心をお持ちの方々向けに、RSSによる最新情報を配信しております。



(アンリツWebサイト)

<http://www.anritsu.com/ja-JP>

(RSS登録ページ)

<http://www.anritsu.com/ja-JP/Media-Room/RSS-Feeds-Index.aspx>

●Web株主アンケートへのご協力をお願い

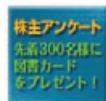
株主の皆様からのご意見を、IR活動改善の参考とさせていただきたく、アンケートへのご協力をよろしく願いいたします。なお、ご協力いただいた方の中から、先着で300名様に図書カード（500円相当）を進呈いたします。当選発表は、発送をもって代えさせていただきます。

アンケート回答ページへのアクセスは、以下の手順で行ってください。

(実施期間：平成22年6月28日～平成22年7月31日)

(Web株主アンケートページ)

① <http://www.anritsu.com/ja-JP> の“投資家のみなさまへ”にアクセス



② をクリック

会社の概要 (平成22年3月31日現在)

商号 アンリツ株式会社
 ANRITSU CORPORATION
 本社 神奈川県厚木市恩名五丁目1番1号
 (〒243-8555)
 創立 昭和6年3月17日
 資本金 140億円
 従業員数 3,589名 (連結) 831名 (単独)

役員 (平成22年6月24日現在)

取締役会議長	戸田博道
代表取締役社長	橋本裕一
代表取締役	田中健二
取締役	山口重久
取締役	小熊康之
取締役(社外取締役)	清田瞭
取締役(社外取締役)	細田泰平
常勤監査役	小野浩
常勤監査役	斉藤五郎
監査役(社外監査役)	龍岡資
監査役(社外監査役)	山本徳男

執行役員 (平成22年6月24日現在)

専務執行役員	長	※橋本裕一
専務執行役員	※田中健二	
専務執行役員	※山口重久	
執行役員	※小野康之	
執行役員	※熊野順之吉	
執行役員	高谷敏彦	
執行役員	舟橋俊澄	
執行役員	永田修文	
執行役員	窪田頭	

(注) ※印を付した執行役員は、取締役を兼務しております。

国内ネットワーク

アンリツ株式会社(本社)
 (計測器等の開発、販売)



アンリツ産機システム株式会社
 (産業機械の開発、製造、販売)
 アンリツネットワークス株式会社
 (情報通信機器の開発、販売、保守)
 アンリツ計測器カスタムサービス株式会社
 (計測器の校正、修理、保守)
 アンリツデバイス株式会社
 (光デバイスの製造)
 アンリツプレジジョン株式会社
 (精密計測機器の開発、製造、販売)
 アンリツエンジニアリング株式会社
 (ソフトウェアの開発)
 アンリツ興産株式会社
 (施設管理、厚生サービス、カタログ等制作)
 アンリツ不動産株式会社
 (不動産の賃貸)
 アンリツテクマック株式会社
 (加工品、ユニット組立品の製造、販売)
 株式会社アンリツプロアソシエ
 (シェアードサービスセンター業務)



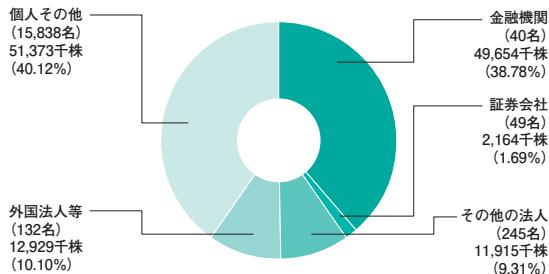
海外ネットワーク



● 計測器の開発・製造拠点 ● 産業機械の開発・製造拠点
 ○ 計測器の営業拠点(現地法人・支店) ○ 産業機械の営業拠点(現地法人)

株式の状況 (平成22年3月31日現在)

- 発行可能株式総数／400,000,000株
- 発行済株式の総数／128,037,848株
- 株主数／16,304名
- 株式の所有者別状況

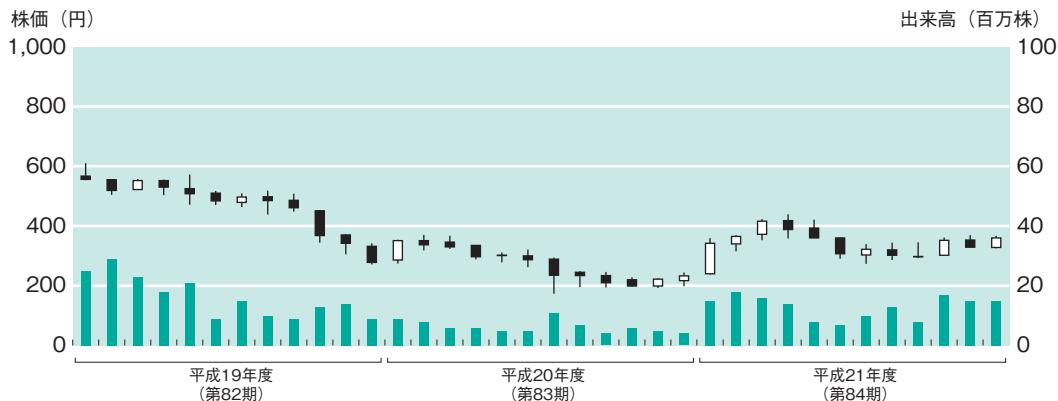


大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・日本電気株式会社退職給付信託口)	19,200	15.07
日本電気株式会社	8,312	6.52
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	6,214	4.88
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	5,238	4.11
三井住友海上火災保険株式会社	2,964	2.33
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社・住友信託退給口	2,500	1.96
住友生命保険相互会社	2,314	1.82
CREDIT SUISSE SEC (EUROPE) LTD PB SEC INT NON-TR CLT	2,271	1.78
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	1,451	1.14
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505041	1,249	0.98

(注) 持株比率は自己株式 (606,015株) を控除して計算しております。

株価・出来高の推移



社債の状況

銘柄	発行日	社債残高	転換価額	転換率
平成22年9月21日満期 2010年満期円貨建転換社債型新株予約権付社債	平成15年9月19日	7,024 百万円	1,070 円	- %
平成24年9月26日満期 第4回無担保社債	平成19年9月26日	10,000	-	-

■株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

■株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

■株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関

大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

■株主名簿管理人事務取扱場所

東京都中央区八重洲二丁目3番1号
住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 東京都府中市日鋼町1番10 (〒183-8701)
住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎ 0120-176-417
(インターネットホームページURL)

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

■特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

■公告の方法

当社ホームページに掲載します。
(URL) <http://www.anritsu.com/ja-JP/koukoku.asp>

Anritsu

<http://www.anritsu.com>